

令和8年度版

北埼玉地域の農業

水と緑、みのり豊かな水田地帯

～北埼玉農業の発展を目指して～



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

地域農業の概要

北埼玉地域は、埼玉県の北東部、都心から50～60km圏に位置し、北側は利根川と渡良瀬川を境に、群馬県、栃木県、茨城県の3県に接する標高16m前後の平坦地です。

肥沃な土壌と豊かな水に恵まれている北埼玉地域は、県内随一の穀倉地帯となっており、水田面積は県全体の約25%を占めています。

また、麦類や施設野菜(きゅうり、トマト、いちご、なす)、果樹(なし、いちじく)、花きなどの多彩な農産物が生産されています。

項 目	単位	北埼玉地域	埼玉県	割合(%)
農家戸数	戸	3,904	36,981	10.6
耕地面積	ha	11,860	72,500	16.4
田	ha	10,240	40,600	25.2
畑	ha	1,622	32,000	5.1
農業産出額	億円	212	1,929	11.0
上位品目	米	億円	528	27.2
	野 菜	億円	872	2.7
	畜 産	億円	250	10.7
	麦 類	億円	18	27.2

※農家戸数は農林水産省「2025年農林業センサス」

※耕地面積は農林水産省令和7年「耕地及び作付面積統計」

※農業産出額は農林水産省令和6年「生産農業所得統計」「市町村別農業産出額(推計)」

※端数処理の関係で表内割合や合計が合わない場合があります。



彩の国
埼玉県



埼玉県加須農林振興センター

北埼玉の多彩な農生産

主 穀

水稻の作付面積(令和7年産)は 8,350haと県内の27%を占め、特に加須市は4,660haと県内一の産地です。夏季の高温対策として、暑さに強い「彩のきずな」「えみほころ」の導入及び高温時の管理技術の向上を進めています。



えみほころ現地検討会



麦類は、小麦、二条大麦を中心に 1,510ha、大豆は148ha(いずれも令和7年産)が栽培されています。小麦は「あやひかり」、大豆は「里のほほえみ」、また枝豆用として「行田在来青大豆」などがあります。



大型コンバインによる麦の収穫 行田在来枝豆「さきたまめ」



水稻、小麦、二条大麦、大豆の種子生産が行われています。

特に、水稻の「彩のかがやき」と令和8年から一般生産が始まっている「えみほころ」の県内全ての種子が管内で生産され、県産米の安定供給に貢献しています。



採種生産物の審査会



土地利用型農業を中心に、RTK基地局による自動操舵システムやロボット田植機、ほ場管理システム、ドローン等のスマート農業の導入が進んでいます。



ロボットトラクタによる
乾田直播作業



自動田植機による
可変施肥同時作業

野 菜



きゅうり・なすは、主に加須市・羽生市で栽培されています。北埼玉地域では一元共販に取り組み、市場から品質の良い産地として高い評価を受けています。

また、新鮮さをアピールするためきゅうりの花をつけたまま出荷する「花付ききゅうり」にも取り組んでいます。なお羽生市には、県内最初の選果場が設置されています。



新鮮なきゅうり

トマトは、加須市を中心に促成栽培が行われています。

特に、北川辺とまと研究会は共同選果施設を整備し、食味や鮮度にこだわった栽培に取り組んでいます。



トマト選果施設

いちごは、以前から加須市を中心に「とちおとめ」「やよいひめ」等が栽培されてきました。近年は、市場等から高い評価を受けている県育成品種「べにたま」や「あまりん」の栽培が増加しています。

また、一部高設栽培施設を導入した観光摘み取りも行われています。



県育成品種「あまりん」

各市にあるJAの農産物直売所、道の駅等には、多品目の野菜が直売用に出荷されています。また、地産地消と食育を兼ねて、地元学校給食へも様々な野菜が提供されています。

果 樹

なしの栽培が盛んで、共同選果施設を活用した市場出荷に加え、直売など地場流通にも積極的に取り組んでいます。幸水、豊水の主力品種に加え、埼玉県が育成した「彩玉」も栽培されています。

また、いちじくの栽培も盛んで県内屈指の産地です。



加須市産の「なし」と「いちじく」

花 き

施設栽培を中心に、鉢物(洋ラン、シクラメン等)、苗物(ペチュニア、パンジー等)、観葉植物(ポトス等)や切り花(バラ、カーネーション等)が生産され、市場から高い評価を受けています。



鉢物(シクラメン)



洋ラン(胡蝶蘭)

畜 産

養豚の大規模経営が行われており、豚肉のブランド化に取り組んでいます。

また、水田で飼料用子実とうもろこしの栽培が行われ、耕種農家と養豚農家との耕畜連携の取組が進められています。



加須ブランド豚



子実とうもろこしの栽培

6次産業化

農業者による農産物の生産・加工・販売活動が活発に行われ、まんじゅう・ジャム・クッキーなどの商品化が進み、農産物直売所などで販売されています。

特に、北埼玉地域を代表する伝承料理「いがまんじゅう」をはじめ、地域の特産である「いちじく」の加工品や「ホンモロコ」の煮付けなどのほか、近年は「ドライホンモロコ」や「いちごチップ」など、素材を乾燥させて作った新商品が誕生しています。



いちじくジャム



ドライホンモロコ



「ホンモロコ」の甘露煮



いちごチップ

農政の動き（農地の集積・集約と環境負荷低減の促進）

農地中間管理事業

管内では、担い手への農地の集積・集約化の取組を積極的に進めています。関係機関が強力に連携して事業推進を行い、県全体の実施(転貸)面積の約3割(6,170ha：令和7年度末)を占める県内一の先進地です。

また、管内各市が策定した地域計画で描かれた将来の農地利用の姿を実現するため、支援を行っています。



地域計画の目標地図(羽生市尾崎地区)



地元役員との
農地中間管理の会議

環境負荷低減の取組の促進

環境に配慮した持続可能な農業に取り組む農業者に対し、補助事業に関する情報を提供しています。

また、化学肥料・農薬の使用低減に取り組む農業者を認定する「みどり認定」や、化学肥料・農薬を地域の慣行レベルの半分以下で栽培する特別栽培農産物認証制度の活用を支援しています。



特別栽培農産物認証表示

◀ みどり認定制度の啓発

北埼玉の農村整備

ほ場整備事業

未整備や小区画のほ場の大区画化に加え、用排水路や農道を整備することで、生産性の高いほ場を整備します。

大区画化等により農作業が効率化できることから、担い手農家への着実な農地利用集積が期待されます。



整備前

整備後

農地防災事業

豪雨等の災害により農地・農業用施設が受ける被害の未然防止や軽減を目的に、農業水利施設(排水路等)の整備を実施しています。



整備前

「稲荷木落地区」

整備後

多面的機能支払交付金

自然環境の保全や良好な景観の形成など、多面的機能を有する農地や農業用水路などは県民共有の財産です。しかし、これらの維持・保全を農業者だけで担うことは難しくなってきました。

当センターでは、水路の泥上げや草刈り等の共同活動が交付対象となる「農地維持支払」や、施設の長寿化や地域の景観形成、地域住民との交流などの普及・啓発活動が交付対象となる「資源向上支払」等の資金援助により、地域の活動を支援しています。



地域住民による農道の草刈り



子供会と芋掘り体験



加須農林振興センターの組織

部 名	担 当 名		担 当 事 務
管 理 部	総務担当		庶務、経理
	地域支援担当		農産物の生産振興、農地中間管理事業、遊休農地対策、地域計画、地産地消・食育の推進、農業災害、農産物の安全・安心、みどり戦略、農業制度資金 等
	管理・農地担当		農地法・農業振興地域制度、食品表示 等
農業支援部	新規就農・法人化担当		新規就農の支援、農業の法人化・6次産業化の支援
	技術普及担当	東部地域	加須市における農産物の栽培・加工技術の支援、農業経営の改善支援 等
		西部地域	行田市、羽生市における農産物の栽培・加工技術の支援、農業経営の改善支援 等
農村整備部	整備支援・管理担当		農業農村整備事業の新規相談・推進、土地改良区運営・施設の維持管理に係る支援 等
	県営事業担当		県営ほ場整備・かんがい排水事業等の実施
	工事管理・事業調整担当		農業農村整備事業の調整、進行管理

【交通アクセス】

- バス利用の場合
加須駅から朝日バス
加須車庫行き加須車庫下車
徒歩700m
- 徒歩の場合
加須駅から2.5km

- お車の場合
右記地図参照
(駐車場あり)

